
出版教育研究所通信

No. 3 (2002. 8. 29)

出版学校 日本エディタースクール 出版教育研究所

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-4-6

電話 03-3263-5892 Fax 03-3263-5893

<http://www.editor.co.jp/> E-mail: ipe@editor.co.jp

目 次

編集現場でパソコンはどれだけ利用されているか.....	稲庭 恒 夫.....	1
編集技術 背丁と背標の入れ方を工夫する	大 見 修 一.....	6
ホームページ 日中韓出版教育交流センター.....		4
メモ インターネット利用者は 5593 万人で世界 2 位.....		5
文献 最近出た出版関連図書・雑誌から		11
消息 “活版印刷技術調査報告書”, JIS 素案の公開レビューほか.....		11

編集現場でパソコンはどれだけ利用されているか

求人社への“パソコン使用状況アンケート”報告

稲庭 恒 夫

はじめに パソコン経験を求める求人社が急増している

エディタースクールには修了生に向けた求人が年間 400 社近くありますが、急速にパソコン経験を求める割合が増えてきました。2001 年度では 5 割を超えるようになっていきます。求人社の募集要項はその求人に関してだけの記述ですから、それだけでは社内のパソコン環境や使用目的については明確に把握できません。

こうした現実の求人社の要請をカリキュラムに反映させるためにも、詳しく実態を知る必要があり、“パソコン・DTP 使用状況についてのアンケート”を作成して、現在求人をお願いしている会社を中心に約 140 社に宛てて 2002 年 6 月 17 日に

郵送で依頼し、34社から回答を得ました。

アンケートは主につぎの5問とその小項目からなっています

Q1) 出版部(編集部)のパソコン環境(OS)をお教えてください

Q2) パソコンは出版部のどのくらいの方が使用していますか

Q3) 出版部内のパソコンの使用状況をお教えてください

Q4) 今後パソコンについてどのような技能が必要でしょうか

Q5) 今後のDTP化についてのお考えをお聞かせください

アンケート回答社は出版社が13、編集プロダクションが9、それらをかねている会社が3、従業員数は1-9名が22社ともっとも多く40-75名規模の会社が5社でした。業務内容としては書籍編集を中心とした会社が9、雑誌編集を中心とした会社が6、デザインも含めてその両方をかねている会社が13でした。なお、Webサイトの制作もおこなっている会社が7社ありました。

以下質問項目毎に簡単に集計結果を述べます。

パソコンの使用状況 アンケート集計結果

Q1) 出版部(編集部)のパソコン環境(OS)をお教えてください

“Mac, Windows 両方使用”が24社で約7割と目立ちます。Macのみは7社、Windowsのみは3社でした。使用台数はMac, Windowsとも、1-9台が多く、ついで10-24台となっています。

Q2) パソコンは出版部(編集部)のどのくらいの方が使用していますか

このアンケートの性質上パソコン不使用の会社は回答いただけなかった可能性が考えられますが、まったく使用していない社はなく、“全員使用”が79%、“ほとんど”の方の使用が15%でした。

Q3) 出版部(編集部)内のパソコンの使用状況をお教えてください

仕事別のOSとアプリケーションの使用状況への問いですが、まずOSは、DTP、装幀、画像処理はMacがほとんどですが、その他の業務ではWindowsとMacの使用比率は大差ありませんでした(表1参照)。日常の求人からは編集はWindowsが多いだろうと思っていたのですが、今回アンケートに回答くださったようなパソコンを高い比率で使っている会社では、このような結果でした。

アプリケーションの使用は編集での一般的ソフト、DTPでのQuarkXPress、

Illustrator , Photoshop などおおむね予想どおりですが (表 2 参照) , 原稿整理や記事作成では , Word 以外に一太郎 , EGWORD , OASYS , SimpleText , Jedit などさまざまなワープロソフト , エディタソフトが使われていました (表 3 参照) . いずれも数字は使用している会社の数です .

表 1 仕事の内容と OS の使用状況

	企画	依頼	受領	整理	校正	DTP(雑)	DTP(書)	装幀	画像	事務	記事
Win	10	11	10	9	4	2	2	2	1	10	12
Mac	8	9	9	11	8	18	16	13	19	10	9
両方	9	8	10	6	3	3	2	0	6	8	6
使用		1	1	1	1		1	0	1	1	1
不使用	2	2	2	4	16	5	7	9	3	4	3
未記入	5	3	2	3	2	6	6	9	4	1	3

注) Win は Windows , Mac は Macintosh ,(雑) は雑誌 ,(書) は書籍を示す .

表 2 DTP に関連する主なアプリケーションの使用状況

	DTP(雑)	DTP(書)	装幀	画像
QuarkXPress	19	16	10	8
Illustrator	19	15	15	20
Photoshop	19	16	15	27
PageMaker	4	5	1	1
InDesign	2	3	1	1

表 3 編集関連作業における主なアプリケーションの使用状況

	企画	依頼	受領	整理	校正	事務	記事
インターネット	20						
メール		22	26				
Word				16		17	18
Acrobat					8		
Excel						23	
FileMaker						7	
一太郎						2	

Q4) 今後パソコンについてどのような技能が必要でしょうか

これについては新人と社員にわけてききました .

新人にたいしては , Word , Excel などのワープロ , 表計算ソフト , メールなど一般的ソフトが使えること , DTP では QuarkXPress , Illustrator , Photoshop などの DTP ソフトについての基本的操作ができればなおよい , という傾向にあります . ソフトの基本的理解というレベルです .

一方 , 社員にたいしては , システムの理解とトラブルの解決 , データベース構

築，HTML や XML の知識，最新印刷技術への対応，単行本の製作など，要求が高
度になっています．ソフトを仕事で実務的に応用し，さらに業務全体を管理するレ
ベルといえます．

Q5) 今後の DTP 化についてのお考えをお聞かせください

“すでに DTP を導入している”“さらに導入を考えている”が 24 と大部分で，
“これから導入予定”が 2 となっています．DTP の製作点数の割合は 90-100%が
18，50-80%が 3 でした．

今回のアンケートの結果をもとに，編集者のパソコンの使用状況や要求されるパ
ソコン技能を，業務内容とレベルで分類し，“編集者作業別パソコン技能学習表”
をスクール内で作成しました．現在（8月19日）エディタースクールの Web サイト
の下記のアドレスに掲げてあります．

<http://www.editor.co.jp/2002summer/paso-02.html>

この表をもとに 2002 年の夏期セミナーを実施しますが，同時に夜間部その他の
カリキュラムの検討にとりかかっています．

また，今回のアンケートではわからなかった出版社でのパソコンの使用状況の全
体像を，求人社の方のご協力も仰ぎながら掴むようにしていきたいと考えていま
す．

（いなにわ・つねお，本校教育部）

ホームページ 日中韓出版教育交流センター

* 次の Web ページで公開しております．

http://www.editor.co.jp/ipe/nichi_cyu_kan/index.html

- ・ 日中韓出版教育論文選
- 1 中国出版教育の特徴と発展 施 勇 勤 (Shi Yong Qin)
- 2 中国の出版学研究の現状と展望 施 勇 勤 (Shi Yong Qin)
- 3 出版学研究成果に関する理解 韓国出版学会学会誌を中心に
夫 吉 萬 (Booh Gil Man)
- 4 韓国出版学教育の模索と進展に関する研究 研究史と教育史を中心に
南ソク純 (Nam Seok Soon)

- 5 情報技術革命時代と東アジアの出版協力 その必要性と協力方案の模索
金 勝 一 (Kim Seung II)
 - 6 出版人材の養成とその背景 日本の場合 吉田 公彦 (Yoshida Kimihiko)
 - 7 英国の出版教育と訓練養成 ポール・リチャードソン (Paul Richerdson)
-
- ・ 調査報告 日本の大学における出版教育の現況と出版教育の有効性について
日本の大学における出版関連講座のエデュケーターに対する調査を中心に
文 ヨン 珠 (Moon Youn Ju)

メモ インターネット利用者は 5593 万人で世界 2 位

総務省は、世帯（世帯構成員等）、事業所及び企業における電気通信・放送サービスの利用実態を把握するための調査を行い（平成 2 年から毎年実施）、5 月 21 日に“平成 13 年‘通信利用動向調査’”としてその結果を発表した。

サンプル数は世帯調査が 6400 世帯（有効回答数 3845 世帯）、事業所調査が 5600 事業所（有効回答数 3537 事業所）、企業調査が 3500 企業（有効回答数 1783 企業）である。その概要が以下に公開されている。

http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/statistics/data/020521_1.pdf

詳細は、以下に公開される予定である。

<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/>

それによると、2001 年末のインターネット利用者数は 5593 万人（対前年比 885 万人増）、人口普及率は 44.0%（対前年比 6.9 ポイント増）、世帯普及率は 60.5%（前年比 26.5 ポイント増）、事業所普及率は 68.0%（前年比 23.2 ポイント増）と急増している。企業普及率は 97.6%（前年比 1.8 ポイント増）とほぼ 100%に近い数字になっている。

我が国のインターネット利用者数の順位は、米国に次いで世界第 2 位であるが、インターネット人口普及率の順位は、世界で第 16 位である。

世帯構成員（個人）におけるインターネット利用端末の状況では‘パソコン’からの利用が最も多く 4890 万人、‘携帯電話・PHS、携帯情報端末’からの利用は 2504 万人となっている。（小林敏）

【編集技術】

背丁と背標の入れ方を工夫する

大見修一

1. 背丁と背標

背丁・背標は、本を製作する際に、全部といってよい、ほとんどの刷本に刷り込まれています。しかし、本に仕上がったときに読者の目にふれることはほとんどありません。

背丁は、製本作業ができるように刷本をページ順序どおりに折り畳むと、その折本の背の部分に表れるように印刷された折記号です。一般には折丁の順序を示す数字と、書名が刷り入れられています。背丁は、各折の順序を見分けるためと、別の本など類似の折丁が混入するのを防ぐためにつけられています。

背標は、製本作業で、各折丁をまとめて一冊分にする丁合い作業で誤りが出ないようにつけられています。背標は段じるしともいい、折本の背の部分に黒ベタの長方形が印刷されています。丁合いが正しければ、黒ベタの長方形が階段状に並び、乱丁・落丁・取込みがあれば、その階段が乱れているので、ただちに事故を発見することができます。

乱丁とは、丁合いで折本の順序が乱れたものです。当然ページがある部分でつながりません。落丁とは折本が脱落した場合をいいます。本になったときに、ある部分が欠落してしまいます。取込みは落丁とは反対に折本を余分に取り込んでしまった場合をいいます。これら乱丁・落丁・取込みがあれば、本としては不良品・欠陥品です。読者から指摘されれば、当然交換しなければなりません。

2. 正確で間違いのない本をつくる

書籍の製作では、本の内容にふさわしい造本設計がされることが大切ですが、乱丁・落丁・取込みなどがなく、正確で間違いのない本をつくりあげることとても重要です。そのために背丁・背標は、大切な働きをします。

ところが背丁・背標を実際に入れるのは印刷所の仕事です。それは自分のためではなく、製本所の作業のためであり、印刷所ではあまり熱心には取り組んでいな

い、という傾向もあります。そこに発注側の出版社で、全体の仕事を管理している製作者の役割があります。製本所と打ち合わせて、製本所でやりやすいように、間違いが起こらないような背丁・背標を工夫し、印刷作業に指示を与えていく必要があります。

私は、これまで岩波書店で様々な本の製作を担当してきました。特に製本作業で複雑な事項が多い美術書を担当してきました。美術書では、別刷したものを貼り込む例も多くあります。こうした場合にも、製本作業で誤りがでないような背丁・背標を工夫し、考案してきました。こうした背丁・背標の様々な工夫・考案は、現在の本づくりに役にたつ事項もあると思われます。そこで、以下では、これまでの実際に行ってきた様々な背丁・背標を紹介し、今後本づくりを勉強しようと考えている人のためにまとめておくことにします。

実際の本づくりに応用され、乱丁・落丁・取込みなどがなく、正確で間違いのない本づくりに少しでも役立てていただければと思っています。

3. 一般的な背丁・背標と岩波背標

従来から折台数の多い場合は、一般に山形あるいは M 型とよばれる背標が使われていました。すなわち、第 1 折から第 20 折まで背標は 1 折ずつ山を登り、第 20 折の頂上から第 40 折まで 1 折ずつ山を下がります（図 1）。しかし、この方法ではきわめて近い位置にある第 19 折と第 21 折の背標の高さが同じになっており、背標だけをあてにして丁合いを行うと、取り違えて乱丁を引き起こす危険があります。これを防ぐために藤森善貢さんが牧製本の協力を得て工夫考案されたのが、岩波背標（実用新案昭 33 第 1857 号）の形式です。

この方法では、第 1 折から第 20 折まで登りつめ、第 21 折から再び第 1 折と同じ位置に戻って、ここから第 40 折まで登りつめます。つまり 20 折ごとに山登りを繰

り返していく方法です（図 2）。さらに、20 折ごとに という折数を示す印を入れ、最後の折を示すために黒丸を 2 つ（ ）入れます。

なお、背標・背丁は、綴じが可能な 8 ページ以上の折に入れ、4 ページ折では折の表裏を明らかにするために表側（折った場合に外に出る側）の背に背丁のみを入れます。背標の印は、B 6 判、A 5 判、B 5 判では幅 7 ポイントまたは 8 ポイント、長さは、幅の 2 倍とし、背丁の文字も 7 ポイントまたは 8 ポイントとします。新書判や文庫判では、背標の印の幅や背丁の文字サイズを 6 ポイントとします。また、背標は、右開き（縦組）の本では右上がり、左開き（横組）の本では左上がり

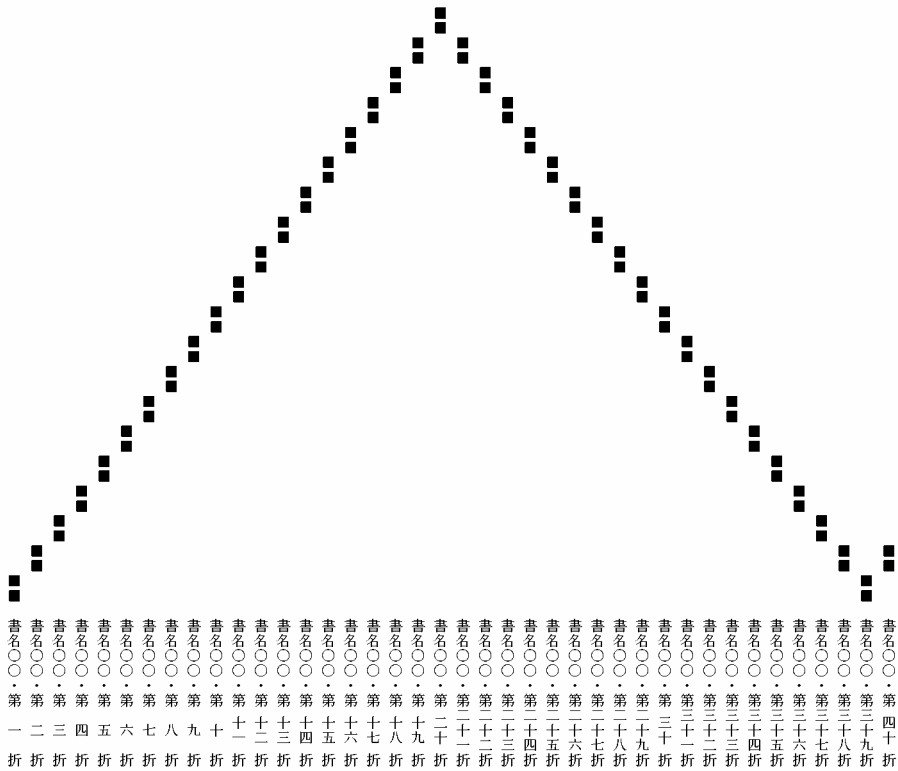


図1 標準的な山形(M型)背標(縦組の例)

にします。

この新しい方法による背丁・背標の方式を最初に採用したのが、藤森さんが製作を担当した日本古典文学大系の第1回配本“万葉集”で、昭和32年5月6日発売となりました。

4. 岩波背標を修正する

日本古典文学大系の第1回配本が行われた頃の私は営業部小売課勤務で、岩波背標については知るよしもありませんでしたが、昭和34年4月から出版部製作課勤務となり、以来、背丁・背標との長いお付き合いがはじまりました。といっても私が実際に岩波背標を用いたのは昭和35年6月から発売が開始された“日本仏教史”(全10巻)限定版が初めてでした。それまでの主な仕事が単行本の重版であつたからです。

以来、新刊の製作にあたっては岩波背標を踏襲してまいりました。昭和40年になって“日本美術の特質”(第二版)、本文800ページ余の製作担当となった時、よ

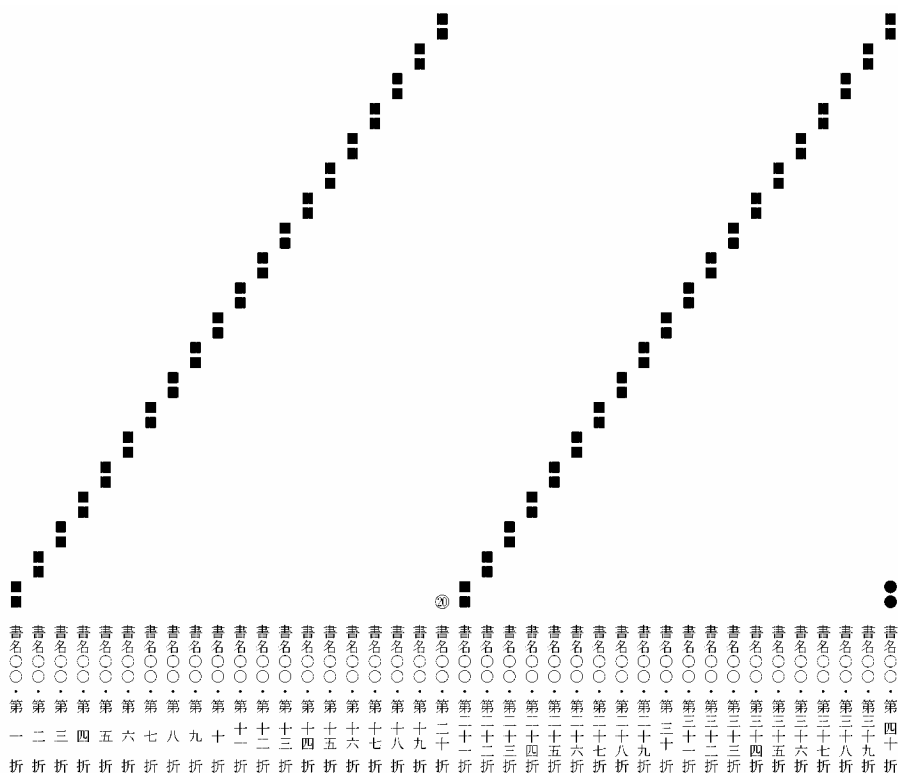


図2 岩波背標（縦組の例）

り確実に折の混同を防ぐ背標の入れ方はないかと考えた末、岩波背標に、次のような修正を加えました。

20折ごとのセットの最初の第1折と第20折の背標の長さを2倍とし、また、最終折を見やすく判別しやすくするために、最終折の背標の長さも2倍とし、さらに、最終折の最下段に黒丸を2つ（ ）入れ、“トメ”の印としました。そのうえで、背標の頂上位置に第1折から第20折までは1本、第21折から第40折までは2本の横並びの線を入れ、同一位置に混入された折でもはっきり区別が可能になるための印を入れることを実行しました（図3）。

昭和51-52年に製作を担当した“禅籍抄物集”では、貼り函に3巻なり5巻のセットを組むこととなり、製本も同時進行となりました。そこで、万が一の場合を考え、他の巻との混入を防ぐために背標の下に巻数を示す記号を入れることにしました。巻数の表示は、ローマ数字の表記法を参考にし、図4に示したように1を示す細い線と5を示す太い線の組合せで巻数を表示する方法をとりました。

このような方法は、書籍ではもっとも避けるべきことである乱丁・落丁を防止す

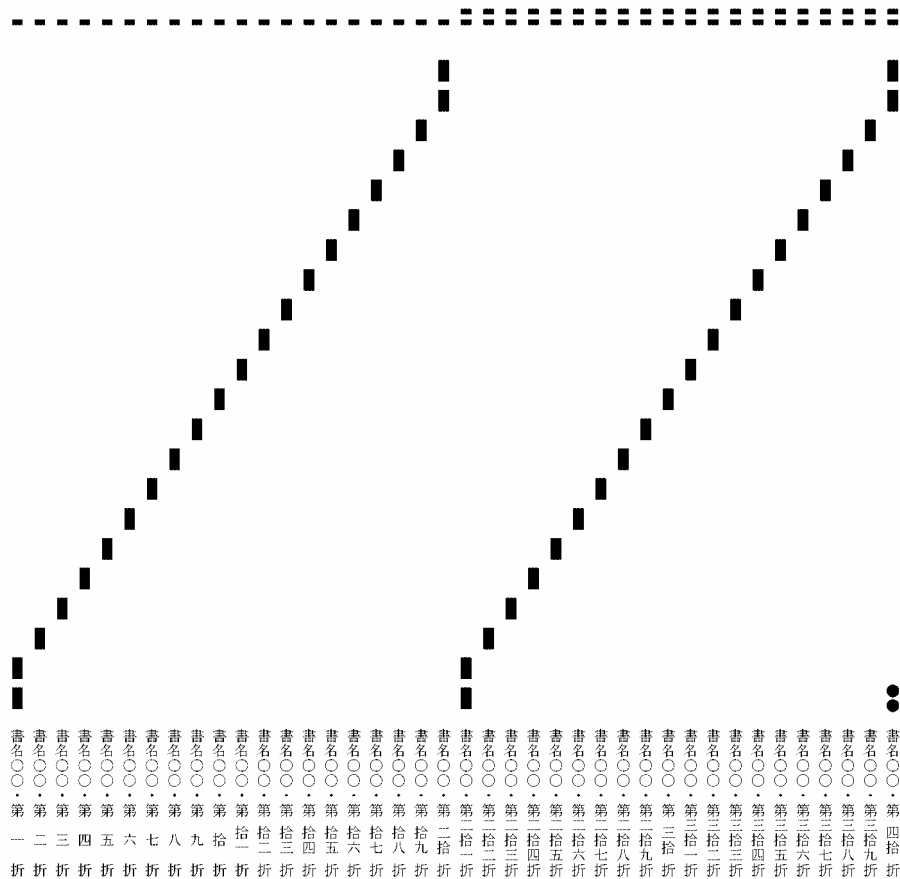


図3 岩波背標を修正した背標（縦組の例）

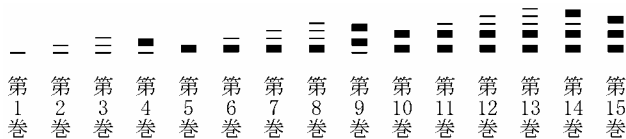


図4 ローマ数字の表記法を参考にした巻数表示

る最良の方法ではないでしょうか。

もちろん、このような方法を実現するための前提としては、系綴じによる製本しか考えることができません。しかし、今日の現状を見ると、はたして出版社は、乱丁・落丁を防止することに関心をもっているのかと疑問に思えることもあります。合理化という旗のもとに無線化が進められています。私の心配の種はつきないようです。

（おおみ・しゅういち，本校講師）

文献 最近出た出版関連図書・雑誌から

- ・青梅市文化財総合調査報告 “活版印刷技術調査報告書” 青梅市教育委員会青梅市郷土資料室, 3月
- ・新文化編 “日本の書店チェーン 21世紀の 生き残り 戦略 時代が変わる書店が変わる” 明日香出版社, 3月
 - ・一見敏男著 “印刷のための色彩学” 日本印刷新聞社, 3月
 - ・山口雄二著 “編集者になるには” ペリかん社, 3月
 - ・永原康史著 “日本語のデザイン”(新デザインガイド) 美術出版社, 4月
 - ・佐野真一著 “だれが本を殺すのか PART-2 延長戦(2)” プレジデント社, 4月
 - ・宮下志朗著 “書物史のために” 晶文社, 4月
 - ・中国出版科学研究所編 “出版学” 中国書籍出版社, 5月
 - ・箕輪成男著 “パピルスが伝えた文明” 出版ニュース社, 5月
 - ・出版ニュース社編 “出版データブック 1945~2000” 出版ニュース社, 5月
 - ・「本とコンピュータ」編集室編 “季刊・本とコンピュータ 2002年夏号(第2期4号)” 大日本印刷 ICC 本部発行, トランスアート市谷分室発売, 6月
 - ・川畑道直著 “原弘と「僕達の新活版術」 活字・写真・印刷の一九三〇年代” DNP グラフィックデザイン・アーカイブ発行, トランスアート発売, 6月
 - ・橋本治著 “浮上せよと活字は言う”(平凡社ライブラリー) 平凡社 6月(初版は1994年に中央公論社刊)
 - ・渡辺満著 “なぜ人はジュンク堂書店に集まるのか 変わった本屋の元大番頭かく語りき” 自由国民社, 7月
 - ・福島聡著 “劇場としての書店” 新評論, 7月
 - ・岩崎勝海追悼集刊行委員会編 “言論に理性を出版に文化を 岩崎勝海の仕事と生き方” 岩崎勝海追悼集刊行委員会, 8月
 - ・日本出版学会・出版教育研究所編 “日本出版史料 7号” 日本エディタースクール出版部, 8月
 - ・日本エディタースクール編 “標準編集必携 第2版” 日本エディタースクール出版部, 8月

消息 “活版印刷技術調査報告書”, JIS 素案の公開レビューほか

* 上記文献欄中 “活版印刷技術調査報告書” は森啓氏を中心とする明星大学活版

技術調査団による精興社の調査報告（A4判 326頁）です。問合せ先 = 〒198-0053 東京都青梅市駒木町 1-684 青梅市教育委員会郷土資料室 文化財係 久保田様
Tel 0428-23-6859 / “出版学”には日本からは吉田公彦，植田康夫，小出鐸男氏の3名，韓国からは李鍾國氏が寄稿しています。閲覧希望者は研究所資料室まで / “言論に理性を出版に文化を 岩崎勝海の仕事と生き方”には本校関係者からは醍醐隆，野村保恵，吉田公彦，稲庭恒夫氏の4名が寄稿しています。A5判 314頁，頒価 2000円，申込み連絡先 = 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-24-12 橋本方コマエスクール Tel/fax 03-3404-5611 郵便振替 00150-8-765347

* “デジタル印刷用語”(JIS Z 8125 素案)が社団法人日本印刷産業連合会の次のWeb ページで8月15日(木)より9月30日(月)まで公開レビューされます。
<http://www.jfpi.or.jp/>

印刷用語の日本工業規格には，“JIS Z 8123 印刷用語 基本用語”及び“JIS Z 8124 印刷用語 取引関連”があります。今回公開レビューを行う“デジタル印刷用語”(JIS Z 8125 素案)は，急速に進む印刷工程のデジタル化に対応するもので，デジタル印刷に関連して用いる主な用語及びその定義について規定されています。

* “JIS X 4051 日本語文書の組版方法”の改正素案が，次の日本規格協会情報技術標準化研究センター(INSTAC)のWeb ページで9月1日(日)より10月31日(木)まで公開レビューされる予定です。

<http://www.jsa.or.jp/domestic/instac/index.htm>

“JIS X 4051”の名称の“日本語文書の行組版方法”は，今回の改正では“行”が削除され“日本語文書の組版方法”となり，行組版方法に追加して，段落，中扉，見出し，箇条書き，注，訓点等の付く漢文，図・写真及び表を含む版面の組版方法，さらに柱及びノンブルを含むページの組版方法が規定されています。

後記 “出版教育研究所通信”第3号をお届けいたします。皆様方からの投稿やご意見をお待ちしております。日本工業規格(JIS)素案の公開レビューは，原案作成段階で案を公開し，一般からの意見を広く募集するもので，寄せられたご意見は，公開レビュー終了後の委員会での審議に反映されことになっています。上記の公開レビューされる2つの日本工業規格(JIS)素案の検討委員会には，私も委員として参加しております。是非ご意見をお寄せください。(小林敏)